

やくしまに暮らして

ネイチャーガイド 大野 睦

第二章 特別か個別か

■世界遺産だから特別なの？



屋久島が世界自然遺産登録された背景は第一章で記してありますが、では世界遺産とは特別なものなのだろうか。

もちろん、登録をされた理由や意味はあり、それらが失われてしまったり変わってしま

えば登録の抹消もあり得るが、しかしながら、世界遺産になったのだからこうしなければいけない、ではない。世界遺産になった屋久島の自然、またその意味をどう守って残してゆくのか、が今を生きる私たちの使命である。このような歴史背景の中でこうして守られてきた今があるから世界遺産なのだと、言い伝え残してゆくことこそが大切な役割なのである。

また世界遺産登録の際には課題というものもちゃんと与えられており、数年後にその課題に取り組んでいるのか、また変わってしまっていないか、ちゃんと守られているのか調査も行われている。

そこで守っていくのはあくまでもその国であり、そしてその場所に暮らす人々であり、伝え続ける心も残し後世に繋いでゆくことが必要なのである。



縄文杉をシンボルとし象徴的に扱っていると思われがちな屋久島の観光。もちろんそれも否めないが、あくまでもそれは入口であり、きっかけであると私は考えている。これだけはっきりとしたランドマークがある屋久島の観光。それをメリットとして最大限に活かしながらもその道の続きを示すことが出来るかどうかが私の使命。

縄文杉が世界遺産なのではない。様々な時代背景のもと生き残った縄文杉という一本の木が教えてくれる屋久島の森。縄文杉という一本の木で森は作れない。互いに支えられ守られて森はある。縄文杉に着生する一本の木も、先日倒れた翁杉も森の中では繋がっている。

■障害があるから特別なの？



私は右耳が聞こえない。だから学校の教室程度の部屋ではマイクなしでは聞こえないし右からの音や声は聞こえてこない。そうすると当然、時と場合に応じて周りの方々にその旨を伝え力を借りることになる。それは私にとって背が低いから高いところにあるものに手が届かないことと同じだと思っている。もちろん、届かないのは見てわかるけれど聞こえていないのは言わないとわかってもらえない。何度も聞き返し相手を怒らせることもあるし、気付かずに不愉快な思いをさせて迷惑をかけることだって多々ある。ただそれは私にとってあくまでも苦手なことなのだと思っているのである。それをちゃんと伝えられず嫌な思いをさせて申し訳ないことをしたと反省をする。聞こえないことが弱点なのではなく、その

ことをちゃんと伝えられないことが弱点。何十年もそんな日々を過ごしても成長していないのかもしれないが。

私の育った小学校は障害者が同級生と出来るだけ一緒に過ごし学べるようにすることにとても積極的であり、また当時の私の担任は子供たちにどうすれば良いか考えさせ、話し合いをする時間を幾度となく与えてくれた。

今思えば20数年前のこの時間が今の自分の考え方に大きな影響を及ぼしている。一人ひとりの個性を大切にすることと特別視することが必ずしも同じではないということが自然に対しても人に対しても通じることであり、私にとって最も大切なことなのである。



大野 睦 BLOG やくしまに暮らして
<http://mutsumi-ohno.seesaa.net/>